

11月 園だより②

平成24年11月1日

しぜんの国保育園・風の丘

<http://www.toukougai.org>

「子ども中心」

新園舎説明会も終わり、いよいよしぜんの国保育園の園舎建て替えが、本格化しはじめました。新しく取り組む事や、環境が変わる事を、慎重に考えつつ、やはり根底にあるのは、「子ども中心」です。「子ども中心」と言うと、よく誤解を受けます。「子どもが喜ぶことをたくさんするでしょ」とか、「子どもの目線に環境を合わせることでしょ」などと思われる方がいます。もちろん、どちらも間違ったことではないですし、その通りという事も多くあります。

しかし、初代～現理事長の理念である「子ども中心」を私なりに理解すると、子ども中心とは、こどもたちの将来が強く生かされることが中心ではないかと感じております。”子ども”とは、一人だけの子どもではなくすべての子どもたちであり、“中心”とは、そのすべての子どもたちが将来、私たち人間の中心になっていくということです。

もちろん、各世代の理事長に聞いて回ったわけではないので、私の解釈が良いかどうかはわかりませんが、少なくとも、「すべて子ども中心」という言葉が、目先の子どもの笑顔だけでなく、子どもの未来の笑顔をも見据えた言葉である事は確信しています。

先日こんな事がありました。2・3才の遠足で、お弁当を食べる時に、隣に座った女の子が、お手拭き入れの蓋が開かず、「開けてー」と言ってきたのですが、(この子は、この先、いつも大人に「開けてー」と言う事になるかもしれない)と思い、一緒に手を取り合って、蓋を開けました。そうすると、何度も自分で開け閉めを練習し始め、仕舞いには自分で開けられるようになりました。

最後は、開けられない友達を手伝うようにまでなりました。何も考えずに大人が蓋を開けてあげる事も、子どもにとって幸せかもしれませんが、彼女の未来にとっては、どちらがよいのでしょうか。本当に些細なことかもしれませんが、このようなエピソードからも”子ども中心とは”という問いを見つけ事ができます。

子どもの要求をその場限りで解決させる事を、すべての目的にしてしまうのではなく、その子どもの成長への学びは、一体どこにあるのかを保育者は真摯に見てゆかねばならないと感じます。”強く生きる”手助けをすること。それが育ての心です。新園舎の話に戻りますが、新しい園舎は、子ども中心を考えて設計しています。子どもたち自身が、自分の力で多くを学び、その力で未来を切り開ける環境や保育が、子ども中心の園舎となり、育ての心につながるのだと考えております。

園長 齋藤紘良